小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

東かがわ市立丹生小学校

関連項目：教育活動プラン④

# 異学年（異年齢）交流活動の充実

## 目的

少子化，核家族化などの影響で，人とのかかわり方や他人を思いやる心などを学ぶ場を意図的に設定する必要があると考えます。そこで，異学年（異年齢）の交流活動を充実し，それらを学ぶ場の一つとしたいと思い，実践に取り組みました。

## 内容

### ● ペア学年による栽培活動

栽培活動は長期にわたって活動しなければなりません。このため，異学年による活動の日常化が期待できます。本校では，１・６年，２・４年，３・５年をそれぞれペア学年とし，ペア学年の中でそれぞれの活動相手を決め，栽培活動を行っています。春から秋にかけては、全学年共通にサツマイモを栽培し，収穫後には１・６年では「焼きいも大会」を実施するなど、継続的な交流を行っています。

また，ペアで春まきと秋まきとして，マリーゴールドやパンジーなどの鉢花の栽培も行っています。

### ● 昼休みのペア学年活動

毎月１回，木曜日の昼休みを「ペア学年によるなかよしタイム」として，栽培活動と同じペア学年での交流活動を行っています。毎回，学級担任や児童で活動内容を話し合い，運動場や体育館での「おにごっこ」や「ゲーム」などのほか，栽培活動の時間としても利用しています。右の写真は，２学期の校内読書週間期間中に，６年生が校内のいろいろな場所を利用して，１年生に「読み聞かせ」を行っている場面です。どの場所でも，１年生が真剣に聞き入っている光景が印象的でした。

### ● 幼・保との交流活動

本校では，隣接する幼稚園との交流が以前から活発に行われていました。また，保育所も近くにあるため，年間を通じた交流活動計画を関係職員が集まって協議・立案し，計画的な交流活動を行うようにしました。特に，５年生と５歳児との交流を毎年充実するように努力しています。右の写真は，５年生と幼・保５歳児との「プール遊び」の交流場面です。写真のように５年生が５歳児をおぶってメインプールを歩いたりするほか，入水前からいろいろと世話をしたりするなど，年長児童にとっての異年齢交流活動のメリットがよくわかります。

## 成果

１，２学期にそれぞれ実施した教員の自己点検結果では，「子ども相互の人間関係を深める工夫」の項目について，肯定的な評価がそれぞれ８４．６%，９３．８%（１学期比＋９．２）と，多くの教員が児童の変容をプラスとして捉えています。今後は，自己点検結果でも指摘があった「なかよしタイム」の内容の充実等を図っていくことが，次年度へ向けての課題の一つとして考えられます。